

# ふれんど

2015  
第 28 号

【ひろがれ、かसानれ、むさしののわ】



特集

## 「食」で しあわせを 届けたい

武蔵野福祉作業所から広がる  
可能性、無限大

まちの人に聞きました。「福祉って何？」

一般社団法人グリーンボード  
鈴木圭子さん

おしらせ

「広報「新計画」」進行中

食を通じて地域とつながる  
パールブーケ

カフェで使える  
クーポン付き  
⇒5ページ



給食の配膳。カウンターの向こうに笑顔が見えます

# 特集

## 「食」で

## しあわせを届けたい

〜武蔵野福祉作業所から広がる可能性、無限大〜

### 三つの「おいしー」部門

武蔵野福祉作業所の食品事業グループには、大きく分けて三つの部門があります。

一つは、給食調理業務の部門です。武蔵野福祉作業所とワークステーションの合わせて約90食分の給食を、ご利用者と職員でそれぞれ分担して作ります。もう一つは、武蔵野福祉作業所の一階で営業するカフェレストラン「やさ

い食堂七福」での食事提供部門です。月替わりと定番メニュー、そしてお持ち帰りできる惣菜やデザートなどを揃えて、ご来店されるお客様をお迎えしています。

そして、三つめは配食サービス部門です。(福)武蔵野のグループホームやショートステイ事業を行う5事業所と、他法人の高齢者施設の食事を作り、配達をしています。

### 成長と成果

食品事業グループでは、現在、ご利用者、支援職員、パートスタッフ、合わせて22名が各部門で働いています。一番長く働いているご利用者で、もうすぐ7年。皆それぞれの持ち場で得意分野を見つけて力を発揮されています。食品事業が開始された平成20年4月、武蔵野福祉作業所の給食調理業務のみでしたが、毎日、約80名分の給食を作るため、5キロのジャガイモの皮



はざかけ&能登塩おむすびセット



テイクアウトもできます。人気の「かぼちゃの小豆煮」

七福の看板を  
しよって、  
おいしいお食事を  
運びます



を剥いたり切ったり、20束以上の小松菜を洗ったりと、未知の世界に踏み込んだような、多くの不安を抱えながら、ご利用者は大変な思いをされたことと想像します。

しかし、忙しい毎日を繰り返していく中で、最初は食材の切り方などをその都度職員に聞いていたご利用者も、

自分で切り方や加工の仕方を考えるようになり、今では献立表を見ただけで一日の流れを把握できるまでになりました。また、七福でお客様から複数のオーダーをいただいた際も慌てずにトレイや小鉢の準備ができるようになりました。これまで、安定して食事を提供しながら事業を拡大できたことは、

武蔵野福祉作業所では、知的障害がある方たちに働く場を提供しています。その一つである食品事業では、調理と食事の提供を行っており、食を通じて地域とのつながりを目指しています。一人ひとりが「食」に関わる作業をとおして成長することで、次第に「職」としての意識も高められています。ご利用者、職員が共に自らの役割を自覚し、お互いを認め合い、そしてより活躍できる舞台を目指していく、それが武蔵野福祉作業所の食品事業グループです。



朝の朝礼風景

ご利用者の成長なしには語れません。そしてまた、私たち職員に求められるものも同じです。調理師免許を取得した支援職員や、食品業界から転職した職員を含め、現在は管理栄養士1名と調理師5名からなる調理の専門職集団へと成長しました。

### 食品事業グループの一日

食品事業グループの三つの部門は、作業の役割も分担されています。そのため、他の部門の様子がわからないことがないよう、必ずグループ全体の朝礼をしています。周りがどのような作業をしているのか、自分がどのような

役割を担えばよいかを確認し、それぞれの持ち場で作業を開始します。給食調理業務部門は、①調理・盛り付け、②翌日の仕込み、③洗浄、に大きく分けられます。七福での食事提供部門は、セントラルキッチンとサテライトキッチンに分かれて作業をしています。セントラルキッチンでは、七福で提供する数多くのメニューを計画的に仕込む場となっています。サテライトキッチンでは、受注したお客様のオーダーに合わせてセントラルキッチンから受け取った食材を加熱・調理して提供しています。

### 調理のバリアフリー

武蔵野福祉作業所の食品事業グループの特徴は、一度、調理・加工したものを保存し、別日に提供できることです。このことを可能にしたのは、おいしさを保ちながら安心・安全に長期保管ができる「新調理システム」の導入でした。

これにより、当日の盛り付けと翌日以降の仕込みを同時並行して行うことができるようになり、常に安定した作業量を確保することができました。

このことは、障害があるご利用者にとって、作業の時間的な余裕を生み、じっくりと調理の仕事に関わることを可能にしました。新システムは、一つの料理を完成させるまで一連の工程を細かく分けることができるため、役割分担が成り立ちます。どのような作業も役割を単純化することができれば調理の場で働くことを目指している障害がある方の活躍の場につながります。



働きあう仲間がいるから頑張れます



お酒に合うと評判です。「にしんのマリネ」



安全で、おいしい野菜。下ごしらえ中





## 夢を かなえる場を 目指して

武蔵野福祉作業所の食品事業グループは、今まで「食」を通じて多くの広がりや可能性を目的に目指してきました。



### 夢の実現に向けて

あるご利用者は、ご自宅での料理経験もあり、ご本人が強く食品事業グループを希望されました。ところが、普段から手指の皮をむく癖があり、傷が絶えませんでした。その状態では、衛生管理上、食品事業に携わっていただくことはできません。傷を治してはまた作りの繰り返しで、食品事業への所属は困難かとも思われました。しか



自慢のショコラケーキ

し、ご本人はあきらめず、「傷を作らない」という目標に向けて職員と確認をしながら取り組みました。

7か月後、目標を達成し、晴れて食品事業グループのメンバーとなりました。ご本人の強い思いは実を結び、所属後は、七福のデザート作りに強い関心を示され、プリンやケーキなどのデザートをほぼ一人で作れるほどに成長されています。

今では、さらに活躍の場を求め、「シェフになりたい」という夢を掲げて**神戸スウィーツ・コンソーシウム**に申し込み、一流のパティシエからデザート作りを学ばれました。現在、七福で提供しているデザートのはほとんどは、その方が作られたものです。

また、別のあるご利用者は、最初、いつも伏し目がちで自信のなさそうな様子でした。共に仕事をして、声小さく、作業が終わってもそれをなか



神戸スウィーツ・コンソーシウムにて

なかいせいで固まってしまいうこともありました。しかし、多くの料理を作り、提供していく中で徐々に自信がつき、しばらくするうちに、積極的に新しい作業に取り組むようになりました。声も大きくなり、顔も上を向くようになりました。食品事業グループの中で、自分の持てる力をしっかりと感

今では、より力を発揮できる場を求め、一般就労を希望、現在では大手ファーストフード店に勤務しています。

### パートナーシップを求めて

可能性の広がりはお利用者だけではありません。武蔵野福祉作業所の向かいにある(公財)武蔵野健康づくり事業団と共に、同じ地域でサービスを提供する福祉団体として連携し、新たな市民サービスへの発展を目指しています。これまで、七福の料理に健康づくりの視点からアドバイスをいただく取り組みや、武蔵野健康づくり事業団の主催するセミナーを七福で開催し、低カロリーのデザートを提供しています。このデザートはその後七福の新メニューとして加わり、地域住民の健康づくり支援にも一役買っています。

「食」を通じたつながりはまだまだあります。武蔵野市の姉妹都市である広島県大崎上島町の(福)大崎福祉会ふれあい工房からは、瀬戸内海で作られた柑橘やブルーベリーの仕入れが決まりました。また、(株)パソナハートフルゆめファームからは、働く障害がある方たちが作る無農薬・減農薬の露地栽培の野菜の購入を始めています。質の良い野菜や果物を扱える利点はもちろんのこと、多くの障害がある方がお互いの「職」を通じて働き合える、そんな事業への発展を目指します。

(武蔵野福祉作業所/戸頃 仁)

#### info.

#### 武蔵野福祉作業所

- 事業形態：多機能型(就労移行支援・就労継続B型・生活介護)
- 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-12-20
- TEL 0422-53-1782 FAX 0422-53-9337
- 対象：障害者手帳をお持ちの方

→地図 P.8-A

#### 七福

やさしい食堂 七福  
営業時間：11:00～16:00  
定休日：土・日・祝  
ご予約は TEL0422-52-7828

→地図 P.8-B



■TFTマーク  
低カロリーなTFT (table for two) メニューを1食お召し上がりいただくと、発達途上国の子どものための給食1食分(20円)が寄付されます。

平成26年度までに3万食分の寄付を達成しました



今夜はスペシャルメニューの夕食会です



施設紹介

19

それぞれの  
ライフスタイル

せきまえハウス

せきまえハウスは、静かな住宅街の一軒家、知的障害がある30〜40歳代の女性6名が暮らすグループホームです。皆の共有の住まいではありませんが、どの方もご自身のペースで過ごし、一人ひとり違うスタイルの暮らしを営んでいます。それぞれに求める暮らしのあり方は異なりますが、その方にふさわしい生活リズムや時間の楽しみ方が、自然と生まれてきています。

毎日の生活には、困りごとや悩みも尽きず、健康のこと、仕事や人間関係など多様な課題も浮かび上がってきた。より自分らしく心豊かな暮らしにつながるよう、一人ひとりが、日々の時間を積み重ねています。

(せきまえハウス／海野 桂)

せきまえハウス

〒180-0014

武蔵野市関前1-2-27

TEL:0422-55-5350

施設形態:共同生活援助事業  
(グループホーム)

対象:知的障害がある女性の方

一地図  
P.8-C

食を通じて  
地域とつながる  
25  
変わるものと  
変えないもの  
パールブーケ

一地図  
P.8-D

パールブーケは、武蔵野障害者総合センター1階にある国産小麦と天然酵母を使用したパンの販売と、ランチが食べられるお店です。

パンの種類が増え、焼き上がったパンが棚に載りきらなくなったのをきっかけに、一般社団法人東京馬主協会から助成金をいただき、店内の改修を行いました。売り場を広くするためにカウンター席を取り外し、パン棚とレジ台を新しくしました。以前の重厚な雰囲気のある濃い褐色の木材から、明るい色の木材に変えたことで店内の印象が明るく変わりました。お客様からの評判も使いやすくなったと上々です。これからも、より親んでもらえる店へと



開店直後の風景。新しい棚に続々とパンが並べられます

変化しながら、おいしいパンを安心安全な材料で作っていきたいと思います。  
(ワークセンター) けやき  
「パールブーケ」／西村真代

※次号はさくらごはんを紹介いたします。

ぶれっそ28号をご覧いただいた方に特典をご用意しました。期間中、500円以上ご利用のお客様にブチスライツをプレゼント致します。左下のチケットをお持ちください。スタッフ一同お待ちしております。

# まちの人に 聞きました。

## 「福祉って 何？」

28

一般社団法人

グリーンボード代表理事

鈴木圭子さん

## 暮

らしの身近な存在である公園、道路、街路樹。それらが街並みに自然と溶け込んでいるのは、より便利に、快適に、心地よく使えるようにと設計段階から様々な工夫が施されているからです。

●武蔵野のまちと緑を見つめて

鈴木圭子さんが代表理事を務める一般社団法人グリーンボードは、環境や緑に関するまちづくりのエキスパート。整備・設計のアドバイスをはじめ、緑・環境まちづくり情報誌『みちまちみどり』や市内のみどりの情報冊子の制作・発行、花の講習、イベントの仕掛けづくり、被災地支援など、事業ごとに専



「まちの緑を再発見してほしい」と、誰でも気軽に参加できる体験型のイベントも多数企画しています

門家たちとプロジェクトを結成し、活動しています。

鈴木さんがまちづくりで心掛けているのは、生活する方々の気持ちに寄り添うこと。たとえば元気な若者には難なく渡れる交差点も、お年寄りや車いすの方だったら？ 子どもやベビーカーを押すママだったら？ と想像を膨らませます。

「まちの人の気持ちになって行動してみるんです。公園を造るとしたら、どんな遊歩道を歩いてみたいかな、どこに緑があれば気持ちいいかな、ここにベンチがあればきっと一休みしたくなるはず……。そう思い描いた公園がみんなの思い思いの時を過ごせる場所になっていければうれしいです」と笑顔で話す鈴木さん。安全や利便性はもちろん、そこに集う人が幸せになれるまちづくりを目指しています。

●人と人がつながるまちづくり

鈴木さんには、一昨年からワークセンター大地とデイセンター山びこのアドバイザーとして、創作活動の新しいアイデアを次々とご提案いただいています。その一つが、大地のご利用者が取り組む着物を



環境まちづくりコーディネーターの鈴木圭子さん（中央）。パワフルな求心力と豊かな発想力で周りにはいつも人が集い、笑顔があふれています  
一般社団法人グリーンボード  
武蔵野市吉祥寺東町  
michi-machi-midori@parkcity.ne.jp

リメイクした小物づくり。その作品を展示販売している「ものづくり工房hiboba」が今後の地域の拠点になるようにと、まちの人たちとの架け橋としてご尽力いただいています。こうしてできた新たなつながりは、今も一つひとつ芽吹きながら私たちの活動の可能性を広げています。

「まちは人がつくるもの。人と人をつなぐのも私の大切な仕事です。自分がコーディネートした活動や方々によって発展していくまちを見られるのも醍醐味です」と目を輝かせる鈴木さん。東日本大震災の年に大病を患い、命というものを見つめ直す中で、幸せを分かち合い、互いに支え合う生き方をしたいとの思いを胸にしたそうです。「幼い頃から年齢や障害にかかわらず、みんな一緒にいることが自然でした」と話す鈴木さん。すべてを包み込むようなやさしさが、みんなの思いを一つの形に紡ぐまちづくりに活かされているのだと気付かされました。

（聞き手：デイセンター山びこ 早川友紀）

## 笑顔を見る 喜び

特別養護老人ホームゆとりえ  
橋本めぐみ

私は今年で入職2年目の職員です。1年目は仕事を覚えることで精一杯でしたが、2年目は、日々、ご利用者に楽しんでいただける時間、の提供を心掛けています。

私たちの仕事はご利用者の食事や入浴、排泄の支援をすることです。いずれも、ご利用者の生活を支援するため



みんなで風船バレー！

→地図  
P.8-E

に大切なことですが、ご利用者からの「何か遊びたいわ」という声をきっかけに、生活の中に楽しめる時間を求めていることを知り、みんなでレクリエーション活動をすることにしました。

人前に立つのが得意ではないため、

最初は大勢を前にうまく立ち回ることができず、恥ずかしいという気持ちもありましたが、風船バレーやトランプゲーム、歌に合わせてのダンスや、大きな輪になって歌ったりと、少しずつレパートリーを増やしていきました。

今では、「また風船バレーがやりたい」との声をかけていただいたりするなどご利用者が楽しみにしている様子がかがえます。1年目には築けなかったご利用者との新たな関係を、楽しみを通じて構築できたと感じています。普段よりも活動的に過ごされる姿や、笑顔を見られることをうれしく思い、そして何より私自身も楽しんでいきます。今後笑顔あふれる、ご利用者に楽しんでいただけるような時間の提供を目指して努力していきます。

## 仕事の 影響力

ジョブアシストいんくる  
後藤耕士

私は3月まで、武蔵野市障害者就労支援センターあいるで、障害がある方が企業就労を続けるためのサポートを行っていました。就職を希望する方との面談などを通じて経験や生活の理想などを理解し、その方に合った仕事を一緒に探したり、就職された後も職場を訪問し、ご本人をはじめ、上司や同僚の方のお話を伺って、課題があれば一緒に解決策を考えました。

日々、やりがいを感じていましたが、特に、ご本人と会社の双方から喜びの声をいただくと、この仕事をしていて良かったと心から思いました。

先日、サポートを行った方は、なかなか就職が決まらないことからネガティブになりがちでしたが、無事に企業から内定をいただき、持ち前の几帳面さを生かせる仕事に就くことができ

ました。採用後もいつも通り落ち着いて対応されており、職場訪問の際にご本人から、「仕事は始まったばかりですが、これからこういう形で進めていきたいです」と、具体的な仕事の進め方の話を聞くことができました。未来志向の前向きな話を力強くされている様子がうれしかったのと同時に、仕事に与える影響の大きさを改めて実感しました。

この4月から所属は変わりましたが、これまでと同じように障害がある方と企業の橋渡し役として、少しでも「良い出会い」を増やせるよう、職務に励みたいと思います。



あいるは、障害がある方の就労をサポートしています

→地図  
P.8-F

# 福々刻々

ある大学の先生との会話の中で、福祉施設に就職した卒業生たちが異口同音に「入職から数か月経つが現場で何も教えてもらってない」と言うが、実際はどうなのでしょう——と問われたことがあります。その場にいた数人の施設長は、「いや、今の若い人はここを教えてくださいなどと質問してこない。なぜだろう。それが悩みです」と応じ、支援のあり方、そしてよい支援者であるには等々、最近の懸案を話し合いました。ただ、そこには「自分たちの頃は」という前置きがついて回りました。

年々現場に難しい課題が多くなっていること、その反面、現場に余力がなくなっているという危惧もあること、そういう中で、世代間が相互に感じるギャップをどう越えればいいのか、私は差し迫った問題だと考えました。支援には、求められることに応えていくという側面があり、その問題を解決するには柔軟に、そして支援者全体で力を合わせて対応をしなければならないことが多くあるからです。

「今から振り返ると4月はどうやって仕事していたのかあまり思い出せない」と若い職員が述べたことがあります。入職したての頃は夢中で、とにかく全力で仕事に向き合ったということがわかります。学生時代とは違って常に神経を張り巡らせ、身体もフル稼働だったのです。この若い職員の頑張りを見事だと感じます。

管理職世代は、自分たちの成功体験をその時代固有の背景抜きに語ってしまいがちです。一方、若い世代の職員には、それらをヒントに、どんな仕事をしていきたいのかを現場の困難課題へ立ち向かう中で発見し、自らを開拓して欲しいと思います。よい芽が大きく育つよう私も努めたいと思います。

(理事長 安藤真洋)

## おしらせ 「広報一新計画」進行中



前号から、デザインも一新した『ふれっど』いかがでしたか？ 社会福祉法人武蔵野（以下、法人）では、広報紙やホームページなどの法人広報の見直しを行っています。前号から使用しているロゴマークは、法人内外での公募を経て決まったデザインター山びご所属職員によるものです。

ロゴマークは、「地域社会に役立つ」という法人理念のもと、緑あふれる武蔵野の地に市民と行政、法人が手を携えて前に向かって進む私たちの決意を、3本の柱と手をつなぎ前進するMの意匠に込めました。また、新しい標語「ひろがれ かざなれむさしののわ」を定め、表紙に掲載しています。

法人では、次なる福祉貢献を進めるため、法人中期基本計画（平成27年度から平成29年度）を策定しました。「温かな心のはたらき」が人から人へ伝わり、温かなものが循環する地域が理想だと思います。そして、このような強くしなやかな福祉社会の一翼を担う法人でありたいと思っています。

これから、名刺のデザインや法人発行物などで、法人理念やロゴマークなどがお目に留まることがあるかと思えます。どうぞよろしくお願います。

(統括施設長 高澤勝美)



## 社会福祉法人武蔵野 市内分布図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、A～Fは本誌に記事を掲載している施設です。



## 編集後記

食品事業の特集はいかがでしたでしょうか？ 表紙の夏井は、やさい食堂七福の夏の人気メニューです。今年度も季節を感じられるメニューを皆様にお届けしていきます。(ほ)